



Re live Journal

“りらいふ” ジャーナル

平成26年 陽春号

(4月1日発行)

ニュースレター版 12号

<目次>

1. 私のロングステイ考（其の1） （元南国暮らしの会会長 会員 宮寄 哲郎）
2. 団塊世代、古き良き少年時代の工コ生活を振り返る（その9） （会員 角谷 三好）
3. 森本敏前防衛大臣の講演会（2014年1月23日）を支えて頂いた忘れ得ぬ人々
（関西支部長 阿賀 敏雄）
4. 台湾冬季ロングステイ下見旅行
（会員 渡嶋ハ洲夫）
5. 中国おもしろ話（其の1） （重慶師範大学外国語学院 日本語教師 松木 正）
6. 健康は、心とカラダのズレに気づくところから
「第3回和真式お気楽健康俱楽部」のご案内
（事務局）
7. ミニセミナー「映画で人生パラダイス…ハリウッドスターあれこれ(美空ひばり秘話2)」
（講師…渡辺誠男様 感想文…政田瞳様 感想文を拝読して 会員 渡嶋 ハ洲夫）
8. エッセイ・自分たち探し「ほのぼのマイタウンより」 （フリージャーナリスト國米 家巳三）
テレビ放送も還暦を迎えて“冬の時代”に入っています
9. シリーズ「いまなぜブラジルなのか」（其の1） 川村栄太郎様講演記
（会員 植松 栄）
10. 関西支部からのお知らせ
（関西支部長 阿賀 敏雄）
11. “りらいふ” サロンのご案内「日本語教師でトクする話」 (“りらいふ”塾 塾長 鈴木 信之）
12. バリ コミュニケーション（1月号）
（会員 平川 龍）
13. ニュージーランド・クリストチャーチ レポート（4月号）
（会員 島村 晴雄）
14. バリ・ロンボク レポート（4月号）
（会員 島村 晴雄）
15. “りらいふ” サロン&自費出版図書館移転のお知らせ
（事務局）

発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター (R&I)

〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14 芝栄太樓ビル 4F

VIPシステム内

●TEL 03-5733-2311 FAX 03-5733-3532

●e-Mail: info@retire.org ホームページ：<http://retire-info.org/>

●リタイアメントジャーナル：<http://retirement.jp/>

（発行責任者） 事務局 豊口 一美



1. 私のロングステイ考（其の1）

（元南国暮らしの会会長 会員 宮寄 哲郎）

平成 25 年 12 月 10 日発行のニュースレタ一年末号にて竹川理事長並びに新任の島村副理事長（海外“りらいふ”塾塾長）就任のご挨拶においてご紹介頂きました海外“りらいふ”塾の宮寄（1939 年生まれ）でございます。永いお付き合いのありました当情報センターの憲章に賛同し、且つ所属される豊富な人材の諸先輩とのご交流を致したく、昨年入会させて頂いたばかりの新参者でございますが何卒宜しくお願い申し上げます。

ご紹介にあった如く「南国暮らしの会」にも所属致しており、いさか浅学の徒ではございますが会員の皆様へロングステイに関する色々な情報を今後ご提供申し上げ、少しでも皆様のお役に立てれば幸いでございます

今回ロングステイの事を「テーマ」にと言うご依頼があり本稿で何をお伝えするか迷いましたが、我々が現在知っているロングステイという定年後のライフスタイルの概念がいつ頃発生し、それを実行する為の団体、サークルが出来てきた流れ（大げさに言えば歴史）
を整理し纏めてお伝えする事にしました。

バブル景気の最中 1986 年ごろ通商産業省の K 次官によりあの有名な「シルバーコロンビア計画」が発案され欧米より批判を受けた為、数年後に失敗し大変世間を騒がせた事を皆様ご存知だと思います。実際はこの情報によりスペインのマンションをその頃買った日本人が 100 人程居たそうですが無残にも今ではごく僅かしか居住していないそうです。因みにユーロは上がり、スペインの物価は現在インフレによりその時の数倍になっているとの事、当然の帰結です。しかしこの頃がロングステイの走りだったのかも知れません。

その後事業形態を通産省から受け継ぎロングステイ団体のリーダー的存在となった「社団法人口ロングステイ財団」が 1992 年に設立され国内外長期滞在型余暇活動を始めました。同財団は「ロングステイ」という言葉を造語として作ったとしております。これは実に見事な和製英語であり、国内外長期滞在型ライフスタイルの概念を一言で「表現」し「理解」できる便利な「言葉」だと私は思います。

お陰様で我々はこれを多用させて頂いております。恐らくこの様な時代でしたので 1992 年それ以前を含めても現在のロングステイの概念が生まれ、定着したのはこの頃と考えれば正解であろうと思います。従って 1986 年からとすると今（2014 年）から約 28 年程前から起こった短い歴史ですよと言っても良いでしょう。

経済的時代背景：1986～1991 年はバブル景気の時代、1992～2000 年はバブル崩壊、アジア通貨危機、デフレ突入などが起り、失われた 10 年と言われた長期停滞の時代です。しかし当時バブル期に定年退職した年代の方々は年金を含め最も恵まれた時代でした。

一方、為替相場は 120 円から円高傾向に進む時代でした。100 円を切り 1994 年には 80 円を瞬間に切る記録があった時代です。日本は不景気の時代でしたが、当然円の価値上昇と海外ステイ先特にアジア地区における安い物価とのギャップ「差」は大きくこのメリットを生かし定年後海外で定住、生活するには最適な時期の到来だとロングステイ志向者は考えたのではないかと推察されます。この頃、進取的なロングステイの先人達が活動を始



（筆者）



め団体を作り始めました。「ワールドステイクラブ（1995年設立）」、「ロングステイクラブ（1990年設立）」などがすでにサークルが活動開始しておりました。財団の資料に依りますとこのころの日本人のロングステイ希望ベスト10にはアジアの国は入らずハワイを筆頭にオセアニア、米国、ヨーロッパが中心で、2000年になってやっとマレーシアが10位に顔を出すような状況でした。しかしこの時代でも今ほどの数ではありませんが先進的な方が居り、主に個人的にマレーシア、タイ、フィリピンで長期滞在の生活をしていた方はいましたが、今のロングステイヤーに比べれば圧倒的に少数でした。またマスコミもまだまだロングステイを現地取材したり、TV放映などは少ない時代でした。

ここでロングステイサークルの誕生の過程を具体的に私の所属する「南国暮らしの会」（略称「南の会」）をベースに少し詳しく述べさせて頂く事をお許し下さい。

「南の会」の創設者竹内氏（2007年没）は大きな夢を持ち、何事にも積極的に行動する人でした。60歳のとき経営していた建設会社をあっさり社員に譲り、南欧、オーストラリア、アジア各国を事前調査し①フィリピンの物価水準の低さ②老後のサポートが期待できる労働力③ほぼ永住権に近いロングステイビザの発給システムがすでに出来ていた等が決め手となり、



1992年よりフィリピン・マニラ郊外の高級ビレッジに邸宅を建て居住されておりました。この悠々自適の南国生活を日本人にも味わってもらい将来「日本人村」を作り、老後をその友人たち共に楽しく過ごしたいと、1997年約50人の発起人会の仲間と「南国暮らし夢の会」を立ち上げました。従って立ち上げの経過から「南の会」の活動地区そして原点はフィリピンでした。平成10年（1998年）にNPO法人促進法が施行されたのを機に、会員の拡大や社会からの信頼を得る為、平成11年東京都に設立申請し同年中に認証され、NPO法人となりました。此の時、正式に会の名称を「南国暮らしの会」と決定、「夢」を外し全てが夢でなく現実の物になることの意志を表しました。多くのロングステイの団体の中では最初のNPO法人化でした。この法人化により社会的な認知がなされたお陰か会員が増え始め、フィリピンだけでなくマレーシア（クアラルンプール・ペナン）、タイ（バンコク・チェンマイ）、オーストラリア・パース、ニュージーランド等へ目標が拡大し自分が暮らす適地を探す為の情報交換、それを基に現地訪問するなど会員の活発な活動が行われ始めその後、飛躍的に会員が増加発展するきっかけとなりました。

1999～2000年ころ既に海外における会員の滞在先情報、サポートの為、国内外に国内5支部、海外5支部が開設され活動を開始しました。これは会員への強力なサポートの役目を果たし今でも組織の要になっております。以上が会の設立とその後の推移です。さて次に当会員で「わたしのりらいふ」で有名な渡島ハ洲夫大先輩が会長をされていた「キャメロン会」を創設開始されたのが久保田 豊氏であり、多くの仲間へ呼びかけされたのが1993年、南の会の創設者が仲間を募ったのもほぼ同時期であり奇縁とその当時の時代の流れを感じます。

そして2002年にキャメロン会が設立され南の会と同じくその後大発展をされていることはご承知の通りです。このころの10年間が各ロングステイサークルの黎明期でありました。2001年ころから新聞社、雑誌社、TV会社などマスコミがロングステイの動きを追って盛んに記事掲載やTV放映した時期でそれにより各サークル（クラブ）会員数が増加し始めました。以上本稿ではロングステイ関係団体の設立開始の歴史などを追ながら纏めてみましたが皆様のご参考になれば幸いでございます。次稿ではロングステイが開花し、いよいよ発展期に向かった状況と出来事などをお伝えしたいと思っております。

<次号に続く>



2. 団塊の世代古き良き時代のエコ生活を振り返る（その9）

◇春とともに タケノコ採り（5の3）

（会員 角谷 三好）

戸隠は古来より信仰の里として多くの信者が奥社、中社、宝光社に参拝に訪れるミニ門前町として栄えてきた。今も宿坊と称して信者達が宿泊する旅館が神社周辺に多く見られる。信者達が参拝に訪れれば宿坊のような宿泊施設、飲食をする食堂、お土産やなどが参道を中心として発達していく。

その中で、食べ物で言えば贅沢を慎む仏教などの教えから、手打ちの蕎麦に人気が集まり、また、お土産として戸隠特有の熊笹（別名で曲がり竹とも呼ぶようである）で編んだ竹細工に人気があった。これは、冬の雪深い地で雪に覆われても決して折れる事のない丈夫な熊笹の習性を利用して作られる戸隠特有なお土産である。とにかく丈夫で長持ちして時がたてば経つほど、竹に光沢が出てきてその美しさを際立たせる代物で、戸隠のお蕎麦屋では殆どと言っていいほどこの竹を用いたザルを使って蕎麦を出している。

一面深い雪に覆われる冬、やることのない村人達が内職としてこつこつと編み上げて売ったものが評判となって以来、蕎麦とともに人気の高いお土産となっている。今は後継者不足ということもあってお土産屋も減ってきているが、これからも是非この伝統的の技を守っていってもらいたいものである。

さて、この熊笹のタケノコが春になると、人を容易に寄せつけないような山深い笹藪の中で元気な顔を出す。クマが出没したり竹細工職人以外には、殆ど普段は人が入らない山深いところだ。私たちは年に数回しか訪れない場所だが、そのあたりの地理は熟知しているので、前述したようにこの熊笹を裂いた竹で編んだ、びく、を肩に掛けで背丈以上もある熊笹をかき分けながら進んで行く。



人が入らない熊笹のジャングルなので、枯れた笹の葉がたくさん落ちて腐葉土となっていることもあって、足場が悪いのだがフカフカとしている。その中からちょっと顔を出している太くて地中に深く埋まっているタケノコを峻別し、腐葉土の中に鎌を差し入れて根元から切って収穫していく。毎年積み上げられた腐葉土の層が厚いため、鎌によって切り取られたタケノコは先端が薄く黄色と茶褐色を混ぜたような色合いの他、殆どは腐葉土の中にあって日の光

の影響を受けていない為に、やや黄色みはあるものの、純白に近い色合いで見るからに美味しそうである。

こうして、木々を揺する風の音、小鳥の鳴き声、笹をかき分ける音、川の流れの音などを聞きつつ熊笹のジャングルを巡って一時間もすれば、びく、の中はタケノコで一杯である。これを、家に持ち帰って皮を剥き茹でて保存する。そのために一年間かけてストックしておいた様々なBINに詰めて空気に触れないようにしっかりと密閉して、風通しがよく一定の温度が保てるような場所に並べておき、冬の寒い時期、わらびやせんまいと一緒にしたり、時には肉を入れたりして炒め物にして食べる。こりこりというか、さくさくというか、あの食感はたまらない。また、このタケノコは一般の孟宗竹はどちらかといえば大味であるが、それとは違い味が濃く、また繊細であって噛むほどに何ともいいがたい素晴らしい味が口一杯に広がる。最近、スーパーなどにもこれと似たタケノコが出回るようになったがその値段は驚くほど高い。故郷の山は自然食品の宝庫である。<次号に続く>



3. 森本敏前防衛大臣の講演会(2014年1月23日)を

支えて頂いた忘れ得ぬ人々

(関西支部長 阿賀 敏雄)

未だにご参加頂いた皆様から「森本さんの講演会良かったね」「満員御礼の盛会でしたね」と主催者冥利に尽きるお言葉を頂戴致しております。

一昨年の6月に『森本敏氏防衛大臣就任』のビッグニュースが東京から流れて参りました。当然の事ながら一週間後に予定されていた豊中ホテル・アイボリーでの森本敏さまの講演会も流会となりました。

大臣就任後は超多忙を極められ二度と講演会はお願い出来ないと諦めていました。

しかし昨年5月に母校の大坂府立豊中高校の同窓会総会(豊陵会)が開催。豊陵会会长の永田武全さまの開会挨拶の中に「豊陵会の財政もピンチご協力を・」と呼び掛けられました。その瞬間、幻となった講演会の復活をお願いして、剰余金の全てを母校に寄付しようと心に決めました。森本敏さまも弊NPOの理事長の竹川も小生も豊高の同期の桜。講演会は即決されました。講演会の司会は斎藤悦子さま。

引き続きの懇親会では夕田芳雄さまの司会。読売テレビ会長の越智常雄さまの乾杯に始まり、ご来賓の恩師藤上幸作先生・元国家公安委員長の中野寛成さま・豊陵会会长の永田武全さまからの祝辞、友人代表として麻殖生健治さま杉村章二さま、防衛大学同期の赤神潔さまと続き、比企野芳郎さまに中締めをお願い致しました。お陰様にて満員御礼の盛会となり心より厚く御礼申し上げます。

皆々様のご協力に因りまして豊陵会に376,875円の寄付ができ、豊陵会会长の永田武全さまよりご丁重なるお礼状を頂戴致しました。

ご協力賜りました“忘れ得ぬ皆々様”に感謝の気持ちを込めて謹んでご報告申し上げます。

(敬称略)

赤神潔・浅井晴雄・荒木久保・有田進・池口美智子・池田宣郎・伊丹淳一ご夫妻・伊東孝雄・伊藤暢朗・井上多加子・植田元則・植松彬・宇野和孝・宇野久義・江連郁子・榎本佐知子・大川隆三・大垣武志・大澤泰・大西英夫・越智克司・越智常雄・葛西美紗・金井邦夫・加藤隆久・加藤芳哉・金井邦夫・川島三代・川村明夫・川村栄太郎・岸本太一・岸本隆司・喜多健・北修爾・北野繁・草野治恵・国沢健一・熊代紘一・栗原信英ご夫妻・栗本征彦・小柳壯一・合田耕造・近藤珠子・斎藤悦子・阪本節子・佐津川護・柴田忠生・芝原成芳・杉浦国裕・杉村章二・杉本あき・杉山康子・鈴木雅子・十河元生・高岡浩子・田中愛子・谷野桂子・高畠洋子・谷垣由美子・谷本清彦・辻本純孝・鳴敷子・鳥井幸子・仲井祥子・中尾寛次・長岡壽男ご夫妻・中島正史・中田八朗・中野寛成・中野豊治ご夫妻・永田武全・西村泰男ご夫妻・丹羽紀子・野畠康・長谷川能民・長谷川松男・畠山信龍・羽田睦美・比企野芳郎・廣瀬純・藤上幸作ご夫妻・藤村修・麻殖生健治・政田瞳・松下喜代子・松田容子・松林弘明・真

野隆夫・水間史恩・森鼻洋二・森本孝弘・安田竹子・山崎一夫・山口淳・山口祥子・山田治雄・結城紘一・夕田芳雄・芳野翠・渡辺誠男

の皆々様有り難うございました。感謝の気持ちで一杯です。



4. 台湾冬季ロングステイ下見旅行

(会員 渡嶋八洲夫)

10年来、日本の厳寒を避けてキャメロン・ハイランド（マレーシア）でのロングステイを楽しんできた。昨年からチェンマイ（タイ）にも出かけるようになった。またダラット（ベトナム）にも調査の為出かけた。新たに近場での冬季ロングステイ候補地を選ぶため台湾にシニア6名で下見旅行に出かけた。

（1）期間

2014年2月10日～21日（旧正月は混雑するので避けた）

（2）事前情報

新高山会長久保田豊氏から色々な情報を頂き事前調査の結果「新営」に宿を構え台湾南部の各地域に足を延ばし、帰路台湾中部湖畔リゾート「日月潭」並びに台北市の観光も行い、桃園空港に便利な桃園市に宿泊した。冬季の降水量は台湾北部では多く、南部雨量は少く気温も20°C前後と過ごしやすいので、南部の新営、嘉義、高雄、台南中心に調査することとした。（今冬滞在期間、台湾の人も経験のない異常気象に見舞われ、朝夕の温度は10°Cを記録日中も肌寒さを覚えるほどの寒波に見舞われた）

（3）航空便

- （成田・羽田→桃園・松山）：中華航空、エバ航空、全日空、日本航空等
- （成田→桃園）：LCCスクート、エアアジア等
- （成田→高雄）：日本航空、中華航空

今回は各自が航空券の手配を行ったのでスクート、エバ航空、日本航空と分散する結果になった。

（4）各地の特徴

（ア）台南市新営区

桃園空港からホテルまでの道のりは次の通り

{桃園空港⇒（バス20分）⇒新幹線桃園駅⇒（新幹線約60分）⇒矢印嘉義駅⇒（バス45分）⇒新営駅⇒（徒歩2～3分）⇒ホテル

（a）交通の便是良い

台鉄線（在来線）の特急、急行が停車、ここを起点とするバスの便も多い。台湾高鐵線（新幹線）嘉義駅から高速無料バスの便も1日15便が運航されている。

（b）街の特徴

人口10万人弱である。駅前は東端にあるため繁華街とは離れており寂れて見える、繁華街は夜市が出店する道路をはさんだ一帯に位置する。街の中心には文化センターがあり、中央公園が隣接しており緑川とも接している。ウォーキングロードも設置されている。朝方に皆でホテルから散歩した。病院と薬屋が多いのには驚いた。新営の人口からしてそんなに需要があるのかと不思議である。近くには南宝ゴルフ場、永南ゴルフ場、嘉南ゴルフ場の3コースあるが今回はプレーしなかった。市内の本格的コーヒー店「盤石珈琲焙坊」で出してくれた胡麻/ピーナッツを甘味料で固めたクッキーがおいしかったので土産に買ってきた。



(c) ホテルとレストランは少ない



駅前の大同大旅社に7泊した。地理的には便利であるが近くには日本料理店桂花田のほかはめぼしいレストランはなく夕食はもっぱらここで済ませた。この店での食事は現地の人にとっては必ずしも安くはないが毎晩賑わっていた。我々はビールと現地の酒2本と料理合計で1人400~500元（2000未満）程度で済ませた。朝食も食べるところが近くに少なく、近くのコンビニで前夜買い求めておいたパン、握り、飲み物で済ませた。

大同大旅社の宿泊料金は安いが、建物や内装は古いままで手を入れておらず、風呂も薄汚れており入るには勇気がいった。ご主人は親切で英語も通じ、高雄、日月かん、桃園のホテルも斡旋してくれた。長期滞在には向いてないと考えている。台湾では夜市が盛んで道に屋台を並べ色々なものを売っており沢山の人で混んでいる。旅行誌等では夜市の屋台での食事を勧めているが衛生上食べる気がしなかった。その近くに「君館商務大旅店」を見つけた。小さっぱりとしておりレートも手ごろでビジネス客も多いとのこと、新営でのロングステイ場合のホテルとしては考えたら如でどうか、近くにもレストランもある。レートは

●大同大旅行 600元（2,000円）

●君館商務大旅店 980~1,480元（3,500円~5,000円） (1元=3.5円)

本格的なレストランの予約をと探していたら親切な女性のRさん（日本で働いているが一時帰国しており日本語は可成わかる）が良い処があるからと自動車で案内してくれた。駅から遠いが日本料理店と台湾料理のレストランで1人1,000元（3,500円）からとのこと結局Rさんの友人のレストラン「阿国鳥肉」を紹介してくれ、料理も選んでもらった。

(d) 近くの景勝地

この機会に下記観光した。（紙面の都合で詳細略）

***関子嶺温泉** 台南市（新営のバスターミナルから30分。

泥風呂に入り、帰りは嘉義に出て夕食をとった）

***烏山頭ダム** 台南市（八田与一中心になって建設したダムと公園、偉業を称えた記念館、与一や部下が住んでいた日本家屋、銅像等）

***安平古堡** 台南市（武将鄧成功的オランダ軍駆逐の武勲を称えた記念建物、記念館等、母親は日本人）

***延平郡王祠** 台南市（鄧成功的武勲を称えて）

***阿里山森林鉄道** 嘉義市（日本が敷設した檜運搬のための鉄道、現在は観光列車として活躍、

何時も満席の由乗れず、北門駅、日本人村、機関車の展示）



阿里山森林鐵道 嘉義市

(イ) 高雄

新営駅から台鉄線特急で60分。

(a) 交通の便は良い



*東京からの直行便

*在来線、新幹線が交わる

*高雄MRT（地下鉄が東西、南北に延びている）

(b) 街の特徴

台北に次ぐ台湾第2の都市。愛河をはさんで旧市街と新市街にわかれる。

*旧市街—古い建物が残っており小高い丘の上には寿公園があり眺めは素晴らしい。

*新市街—大きなデパート、商業施設、商店街も多い。

*郊外—龍虎塔、澄清湖

ゴルフコースも完備されている。

(c) ホテルとレストラン

多彩なホテルやレストランが散在する。今回泊まったホテルは鉄道駅前の「京城大飯店」中級の上程度でレートは2,100元（7,350円）であった。引き続きレストラン、交通機関の便利さ、レート等を考慮の上で探すこととする。

(d) 近くの景勝地

左営、高雄駅、中央公園、西子湾、旗津、澄清湖、橋頭のそれぞれの地区に様々な観光スポットが点在。

(5) ロングステイの候補地

(ア) 第1候補（高雄）

*東京から直行便がある。 価格5万円を切る。（3万+諸経費1.6万）

時間帯も良い（成田18時→高雄22時10分 高雄8時50分→成田15時05分）

*生活環境も良い

*近くに景勝地も多い

*台湾内も新幹線を使えば台北までも行動範囲となる。

(イ) 第2候補（新営）

*費用は安い（ホテル、食事代） *君館商務大旅店に泊まることで生活環境が改善される。

(ウ) 台南、嘉義は調査不足となったか期待持てないと考える。

(6) 今回の旅行で気が付いたこと

(ア) 日本語も英語も通じ難いので筆談

75歳をこえるシニアは日本語を話す人も多いが、一般的には日本語・英語とも通じないが筆談だとよくわかってもらえる。漢字国民同士だから助かる。観光地のレストランでメニューを決めあぐねていたところに老人が現れ「昭和6年生まれ、国民学校で日本式教育を受けた。2軒先で中国茶を販売している。この地で栽培されているお茶の手もみと焙煎を60年もやってきたので最高の品質を誇り、台湾では全国に知られている。後で飲みにいらっしゃい」とのこと。中国式茶道でいれたお茶を美しくいただき、ついついお茶を大量に購入してきた。後で日本シニア6名は義理人情にもろくしてやらぬのではないかと悔しがった。疑えば限はないが御馳走になった茶葉と買った茶葉も違ったのではないかと大笑いした。そんなことはないと信じているが。電車の中で話しかけてきた青年は日本の音学



大学で指揮を学ぶと嬉しそうだった。

(イ) 間口が狭いレストランが多い

間口は狭く外見はパットしないが案外良いレストランに出会うことがある。選択の基準を「大きな丸テーブルがあるところなら問題ない」との鈴木氏の発案で以後これを踏襲した。商店街は長屋が多く間口を大きくとれないからかと推測している。多くの店で料理と価格の入ったA4/B3程の注文用紙を呉れるので、自分の希望のところにチェックを入れる。運ばれてきた料理の確認それに支払いにも使う。

(ウ) 65歳以上のシニアは料金半額

新幹線や在来線それにバス料金は65歳以上のシニアは半額になる。新幹線はパスポートを提示を求められ半額になった。一部ローカル線では駅員によっては台湾人だけだという駅員もいた。博物館等の入場料も半額のところが多かった。

(エ) 時間はきっちと守られる

東南アジアのように時間にルーズかと思っていたが、タクシーの迎もきっちと言った時間に来てくれたし、バスも時間通り、プラットフォームの電光掲示板には「1分の遅れ」という掲示板を見つけた。

(オ) 秩序正しく親切

汽車やバスへの乗車、博物館等の入場は決められた表示に従って並び押し合うことや横からに入る人もなく順序良く乗る（入場する）。整列場所の表示もしっかりしている。エレベータに並んでいたらどうぞ先にとい言われた。人々は親切で路上で地図を広げて見ていると沢山の人が集まってきて教えてくれ、案内まで自分でしてくれる。駅で聞いた女子学生は自分では判らないからと走って行って駅員に聞いてくれた、自分も急いでいるようで知らせてくれた後大急ぎで走り去った。

(カ) 携帯電話

マレーシア、タイで使用したノキアの電話機を持参したが使用できた。台湾市内でシムカードを買いもとめて使った。パスポートの提示を求められるのはマレーシアとタイと同じ。日本への電話料金は安い。

(キ) 夜市の不思議

沢山の食べ物屋台がでているが酒を飲んでいる人を見かけない。アルコールは売らないようでアルコールを飲む人はちゃんとしたレストランで飲むしかない。「屋台で見す知らずの人とも一杯やる習慣がないのは風情にかける」とは酒を愛する同行した坂田さんの意見。

(ク) 日本の良き時代を思いだした

いたるところに戦前を思い出させる建物や人に出くわし日本では失われた「古きニッポン」を懐かしんだのは同行した友人も感じたことだ。

(7) 結び

今回の調査は日数の割には能率よくできた。久保田豊氏からは再三にわたり資料をお送りいただきまた数回にわたりお話しも伺った、現地でもご指導をも受けたまたこと感謝に堪えません。同行した鈴木幹男氏、住野芳暉氏は事前に良く調査され、リーダー役を務めていただき有難かった。更に同行の酒井・松田・坂田3氏は問題が起る度に適切な意見もらった。今回の調査を基に今秋か来2～3月確認のロングステイをしたいと考えている。



5. 中国おもしろ話（其の 1）（松木 正 重慶師範大学・日本語科教師）

私は中国の西南に位置する重慶市(中央政府が直接管理する直轄市で、他に北京市、上海市、天津市がある)で日本語教師として、かれこれ 6 年目を迎えます。私が在任中に見聞きした”中国のおもしろ” ネタをこれからいくつか皆さんにお届けします。

第 1 回 「戦わずにして中国に勝てる 6 つの方法」

日本の民主党政権が 2012 年に沖縄・尖閣諸島の国有化を発表したことを受け、同諸島の領有権を主張する中国が猛反発し、両国間の文化交流を中断させるなどさまざまな対抗措置を打ち出した。中国のインターネットでも政府の強硬姿勢にあわせて「釣魚島（尖閣諸島の中国語名）を武力で奪還せよ」と言った勇ましい「主戦論」があふれた。今は少し落ち着いているがそんななか、「戦わずにして中国に勝てる 6 つの方法」という中国の弱点を指摘する書き込みがネットに登場して話題となった。「ヒラリー長官の警告」と題されるこの書き込みは、米国のヒラリー・クリントン氏が国務長官在任中に訪中した際、中国の指導者に語った内容とされているが、実際は中国人のネットユーザーによる作り話とみられる。クリントン長官は中国の指導者に対し、「貴国がフィリピン、ベトナムおよび日本と開戦すれば、米国は 6 つの対策を考えている。一兵卒も使わず、中国を負かすことができるだろう」と言ったという。具体的な「対策」とは以下のようになっている。

- (1) 中国の政府高官が所有する海外の銀行口座の残高を発表し凍結
- (2) 米国のパスポートを持つ中国人官僚の名簿を公表
- (3) 米国に住んでいる中国人高官の家族の名簿を公表
- (4) ロサンゼルスにある「妾村」を一掃
- (5) 米国在住の中国人高官の家族をグアンタナモ刑務所に収容
- (6) 中国国内の失業労働者などの不満分子に武器を提供。

内容は若干の重複があるが、今日の中国共産党政権の“アキレス腱（けん）”を見事に指摘した書き込みとして評判になった。中国では政府高官の汚職話は日常茶飯事であり、既に引退した温家宝前首相ファミリーが巨額の資産を米国に隠匿していると報じたアメリカのジャーナリストが国外追放された話はまだ耳新しいし、



（後列左から 2 人目が筆者）

現役の周永康共産党常務委員の一族がすでに汚職の嫌疑で拘束されているとも噂されている。一時は習近平主席の政治的ライバルと目された前重慶市長の薄熙来も不正蓄財などの疑いで終身刑が確定しているし、その習近平は娘を米国の大学に留学させていた。私の記憶では中国共産党のトップといえども、公の収入は 6 万元（日本円にして百万円足らず）ほどで、私費で子弟を米国に留学させるのは至難の業である。



確かにことは温家宝にしても薄熙来にしても親族を米国に留学・在住させていたし、中国の捜査機関がなかなか手を出せないと理由で、高官家族の移住先として圧倒的に人気が高いのが米国なのだ。今日の中国では、家族と財産を海外に移し、本人がいつでも逃亡できるように外国のパスポートを持っている共産党幹部が大勢いると言われている。米国が中国の政府高官の海外財産のリストを公表すれば、共産党政権への中国民衆の怒りは一気に噴出するに違いないし、中国内部が大混乱することは必至で、外国と戦争をするどころ

ではなくなる。また、多くの中国の指導者の身内が米国内にいるわけだから、すでに米国に“人質”を取られているといえ、中国の指導者は米国に強く出られない事情がある。私も普段よく中国人の同僚教師たちとも話をするが、政府高官どころか一般庶民(?)であるはずの彼らでさえ、将来自分の息子・娘は米国で教育を受けさせたいというのである。米国がどうしてそんなに好きなのか、あるいは将来の自分の国を信用していないのか私には不思議である。

この「ヒラリー長官の警告」は多くの中国国内のサイトに転載されていて、「恐ろしい。戦争などできない」



「これらのアイデアを絶対にアメリカに教えてはダメだ」といった感想が寄せられているそうだ。

<次号に続く>

6. 健康は、心とカラダのズレに気づくところから

「第3回和真式お気楽健康俱楽部」のご案内



自分一人ではなかなか気づかない心の緊張や身体の歪みを、遊び感覚で発見していくという和真式お気楽健康俱楽部。

簡単な誰でもできる動作のはずが、ちょっとした仕掛けや、発想の転換で、身体の使い方が変わってきます。

参加者が助け合って、様々な動きを試みながら、自分のからだをチェックしてみましょう。きっと新鮮な発見があるはずです。

《講師紹介》 講師の福井和彦氏(医学博士 和真クリニック院長)は、医師としての長年の治療経験から、医師に頼って「治療してもらう」という依存心よりも、患者さんが「自分で治したい」という気持ちの切り替えが大切だということを提唱、楽しく身体を動かしながら、子供のように素直な気持ちになってみよう 「和真式お気楽健康俱楽部」をスタートさせた。

●4月11日(金) 午後7時~9時

●会場 “りらいふ” サロン 〒103-0013 東京都中央区人形町1-19-9 古暮ビル4F

都営浅草線・人形町駅下車 徒歩1分 ●日比谷線・人形町駅下車 徒歩2分

半蔵門線・水天宮駅下車 徒歩5分

<地図> http://www.mapion.co.jp/m/35.68270067_139.78544114_10/



7. ミニセミナー「映画で人生パラダイス…ハリウッドスターあれこれ

(美空ひばり秘話2)」 2月20日(木)会場…ベルウッド

講師…渡辺誠男様 感想文…政田瞳様

前回の美空ひばりさんの話に続き、又どんな楽しいお話を聞かせて頂けるかワクワクして参加しました。私達世代の憧れのオードリー・ヘップバーンについては詳しく話して頂きました。又グレゴリー・ペックの子鹿物語に出演した時と違った魅力にせまるお話を興味深く拝聴しました。

1時間半程の間、水も飲まず一気に映画全盛期のエピソードに一言一言頷き乍ら又、そうそうと相づちを打ちたくなるような一時でした。学生時代に勉強もせず、良い映画がきたら一本も見逃さず見たかったので「スクリーン」という雑誌を買って次はこれと決めて見ていたので、渡辺さんのお話の中の映画は殆ど見ていました。そのせいか明くる日の学校生活は映画の余韻にひたり、一日中ボーとして、いまだに続いていると思います。次回がとっても楽しみです。



<感想文を拝読して>

政田さんの感想には同感です。 (会員 渡嶋八洲夫)

終戦直後は娯楽の乏しい時期でしたが、鎌倉の駅前にカマボコハウスの文化センターがあり、ここで米・仏・伊等の洋画を週代わりで上映、小生は中学～高校でしたが3歳年上の姉の用心棒として毎週夜鑑賞に出かけておりました。「第3の男」「自転車ドロボー」「枯葉」「小鹿物語」「若草物語」「頭上の敵」「哀愁」「ローマの休日」「誰がために鐘は鳴る」「禁じられた遊び」「ロングストニー」「慕情」「鳥」「めまい」等々きりがありません。その後は映画鑑賞の機会も少なくなりましたが、ロングストニー中のキャメロン会員は夜は時間を持て余しており、暇つぶしにと日本からこれらのCDを購入、週1回程度「懐かしき映画鑑賞会」をヘリティイジで開催しましたところ好評でした、皆さん同年だ、懐かしいと沢山の会員が鑑賞会を楽しみました。



8. エッセイ・自分たち探し 「ほのぼのマイタウンより」

「テレビ放送も還暦を迎えて“冬の時代”に入っています」

(フリージャーナリスト 國米 家巳三)

昭和28年にNHKでテレビ放送が始まり、続いて民放の日本テレビ放送網が開局しました。それから今年はちょうど60周年、還暦の年に当たります。

人もチャンチャンコの還暦を迎えると老年期。体力も衰えだすのが普通です。最近のテレビ番組は、もっと衰退劣化が激しくて、よそごとながら「これで大丈夫なのか」と心配になります。

「パパ、テレビがまたバカやってるよ！」と幼い子供がからかいたしたのが、もう20数年前。あれから是正の方向はみいだされることもなく、坂道をころげ落ちるように番組の内容はどんどん貧困化。社会学者の内田樹さんかいります。「(テレビがためになったのは)一流大学出の秀才たちがこの世界に殺到してから。秀才は本質的に“イエスマン”で前例を墨守し上司の命令に従うのはうまいが、創造にも冒険にも興味がない。安定した組織を維持し、高給や特権を享受することには熱心だが危機的状況への対応や新しいモデルの提示には適さない。この先、テレビが復活する可能性があるとすれば、一度どん底まで落ちて、秀才がテレビを見限ったあとだろう」一。辛辣ですが、まことに的を射てる批判だと思います。

その秀才たちは番組制作をほとんど下請け任せ。彼らは制作の現場から離れ、視聴率と制作費だけに気をとられてきました。下請けが時代劇を制作するとします。娯楽性のつよいものでも、しっかり時間と力ネをかけて時代考証しなければなりません。しかし、現実はテレビ局からくる制作費は絞るだけ絞っているから、時代考証にはどうしても手が回らない。そこで、江戸の女がアグラをかいたり、宙を飛んで忍者もどきを演じたりする。「こたび(このたび)」と「しんのぞう(心臓)」のふたことを入れさえすれば時代劇の台本はできる、とまでいわれる結果になっています。

現代もののドラマも、温泉旅館を舞台にしたものが多く頻発する。制作クルーの宿泊費、食事代を旅館が負担してくれるから。

バラエティ番組の惨状も同じ。ロケなどは省き、スタジオにタレントを集めてトークショウを演出しますが、ギャラをケチって、「人数を減らした上、芸人を2流から3流にするのが、今の局の常識」とテレビマン自身が樂屋裏を披露しています。また以前、タクシー出勤だった花形の女子アナも最近、始発電車でお出ましとか。

このようにケチって、ケチってつくった番組をみせられているのが、今の視聴者。それでいて各テレビ局の秀才たちは平均年収1300~1400万円をがっちり確保している。彼ら自身、タコのように自分の足を食っているということを知りながら・・・

ここ数年、若者のテレビ離れはかなり深刻。20代男性の7人にひとりは「全くテレビを見ない」。見る人も、この世代、1日の視聴時間は1~2時間以下が60%。よくみると70代で、1日平均4時間半以上。ところが、番組にしろコマーシャル(CM)にしろ、高齢者に適応することができない。これまで通り、若者受けするものばかり流している。

「面白くなければテレビじゃない！」と檄をとばして長期、視聴率首位を独占してきた局が昨今、こけて低迷しています。3・11の東日本大震災を転換点として視聴者の意識はがらりと変わったのです。ウハウハ、テレビと一緒に「バカやっている」ときではなくなった。国民の、この意識転換、知ってや知らずや、秀才たちの局は転換についていけない。先の内田さんが指摘する「危機的状況への対応や新しいモデルの提示には適さない」の、そのまま。「秀才」とは、なにを隠そう、実は「醜才(しゅうさい)」だったのです。

こくまい・かきぞう 元産経新聞記者・東久留米市在住



9. シリーズ「いま、なぜブラジルか?」 (其の 1)

講演者 川村栄太郎様 2013.12月 於ホテル・アイボリー (会員 植松彬)

今回は私の大先輩、山田治雄さんの紹介で義兄の川村栄太郎さんによる講演が実現しました。そして貴重なブラジル移民生活の体験談を通してブラジルを身近に感じることが出来ました。当日は 65 名の参加者が講師の話に聞き入り素晴らしい師走のひと時となりました。行ったことがなくてもブラキチ?になりそうです。

講演の内容は以下の通りです…

先ほどから周りの人々とお話しをしていて…意外にブラジルのことをご存じないですね。今日は、「ブラジルの話」、『今、なぜ「ブラジル」なのか』、日本にとって、「世界で最も信頼できる、大切な国、BRAZIL」、逆に言えば、日本が最も信頼されている国、ブラジルについてお話しします。



ブラジルといえば農業移民のことしか知らないと、何人かの人から聞きました。…農業移民の方々の残された功績は非常に大事なことです。

現在そして将来、ブラジルと日本はどういう関係になっていくのか、日本にとってブラジルが非常に大事な国であるということを、今日はよく説明したいと思います…。ご存じのように来年はサッカーの世界選手権が開催され、その2年後にはリオを中心にオリンピックが行われます。…2020 年に万博をする予定だったのですが、最近のニュースではドバイに決まったようですね。しかしその2年後、2022 年はブラジルが独立して 200 周年の記念の年を迎えます。このようにブラジルでは、大きなイベントが次々と続き、非常に活気づいております。

けれど…これから追々説明してまいりますが、もっともっと本当に大事なことが「日本とブラジルとの関係」にあるということ、これが、今日お話するテーマです。

ブラジルは世界で最も親日国である。

まず、ブラジルは世界最大の日系人社会を背景に世界一親日国であります。その理由として、これが一番大事なことですが、今年で 105 年目を迎えて、勤勉で正直な日本移民の歴史が築いた信頼関係です。…これをブラジルではジャボネーズ ガランチード(Japones garantido)という言葉で表現されています。「信頼された日本人」という言葉です。僕は 55 年前にブラジルへ行ったのですが、当時日本人の僕を呼ぶのに「おい！ ガランチード」と呼ぶのです。はじめはよく分からなくて侮辱されているのかと思いましたが、よく聞くと「信頼できる日本人」という意味で呼んでいました。今もこの雰囲気と習慣は続いている。両国は地理的距離も遠く、領土問題など国益の対立がありません。また戦後の資源開発、農業開発などの大プロジェクトに日本が積極的に協力し、ブラジルが現在の資源大国、農業大国の基礎を築くことが出来たと日本に感謝しているのです。以上のように日本移民が積み上げた信頼と、戦後日本が援助した(ODA の) 資金と技術…によって絶大なる信頼を築いたのです。

親日大国ブラジル；対日世論調査…日本外務省；2013 年 2 月調査

去る 2 月に日本の外務省がブラジルで行った世論調査の内容ですが、「日伯関係」では 78% が良好と答え、親日ぶりを示しています。また「日系人はブラジル社会に貢献している」が 81%。「将来重要な国」でもアメリカについて第 2 位です。

「ブラジルが日本に期待すること」では技術移転、ブラジル産品の輸入の拡大、工場設立による雇用増大、投資。「ブラジルの発展のために必要な科学技術の手本となる国」では日本 40%、アメリカ 19%。また「適当な留学先」アメリカ、日本の順。日本人のイメージは「勤勉、能率的」20% 「集団・閉鎖的」16% 「計算高い」17% 「礼儀正しい・親切」10%。 日系人のイメージは「勤勉」17% 「礼儀正しい・親切」16% 「正直・約束を守る」16% と肯定的な答えが多い…

では、その「ブラジルとはどのような国」？



ブラジルについての基礎知識を話しましょう。

国土の広さは世界で 5 番目です。(大きい順にロシア、カナダ、中国、アメリカ、ブラジル) 日本の 22.5 倍で 850 万km²。南米大陸の約半分の面積です。南アメリカで国境を接していないのはエクアドルとチリの二カ国だけで他の南米 11 国と国境を接しています。東西、南北各々約 4300 km。ブラジル北部の大部分はアマゾニア地域で高温多湿の熱帯地方です。アマゾン地帯に続く南はセラード地帯、樹木もまばらな草原地帯の亜熱帯、そして温帯と広がり、ウルグアイに接する地帯では冬になると降霜、降雪も見られます。またこの地帯では日本からリンゴ栽培の技術者が指導し美味しい、立派なりんごを栽培しています。

大西洋沿岸には幅の狭い平野が続き、アマゾン川流域には低地が広がり、内陸部から大西洋に高原地帯が 60% を占めています。人口はこの 8 月 31 日にブラジル政府の発表によると 2 億人を突破(正確には 201,032,714 人)しました。人口も世界で 5 番目、平均年齢 28 歳と若く、教育水準の向上、豊富な労働力、経済格差の解消などが進んでいます。

人種としてはヨーロッパ系の白色系が 54%、混血が 39%、アフリカ系の奴隸として入ってきた黒人系 6%、日本人・中国人など黄色系が 2%。世界の各国から移民を受け入れ世界一多民族国家で、その文化と風俗、習慣を持ち込んでいます。その上混血が進み明確な区分が難しい状態になりつつあります。

首都はブラジリア、国土のど真ん中にあり、ブラジル高原の荒涼とした未開の大地に建設された計画都市です。僕がブラジルに着いた 55 年前は建設中でした。その 2 年後、1960 年にリオデジャネイロからブラ

ジリアに移りました。今は 250 万人を超す大都会になっています。街は交通信号がなく、すべての交差点は立体交差になっています。1987 年には、建設されて 40 年未満という若い年でありながら、異例の世界遺産に登録されました。

言葉 ブラジルの公用語はポルトガル語。アメリカ大陸で唯一ポルトガル語が話される国です。

宗教 ブラジル憲法によって、信教の自由、政教分離が保障されています。国教はありません。しかし伝統的にローマカトリック教国で、今でも 65% の国民が信者です。

国の経済規模を表すGDP(国内総生産)は世界で 2012 年は 7 位だったのですが今年 2013 年には 6 位に返り咲くだろうと言われています。このことは皆さんあまりご存じなかったと思いますが、世界の中で経済規模が 6 位の国です。この事実には意外な感じを持たれたと思います。

日本からブラジルへ行くには、いろいろなコースがありますが距離は約 2 万 km です。飛行機でおよそ 24 時間かかります。全く地球の反対側です。前回、三田市の自宅を出て、サンパウロのホテルに着くまで 39 時間かかりました。日本と 12 時間の時差・国内でも 2 時間の時差があります。

ブラジルの国旗 1889 年に設定された国旗は、緑色の地の中央に黄色のひし形を置き、その中に淡い青色の球を描いて、球の中央に「ORDEM E PROGRESSO」(秩序と進歩)と国民の理想を表現する文字が入っています。緑の地は豊かな自然を、黄色のひし形は地下の資源を、淡い青色は大空を、星は 1 連邦直轄区と 26 州を表しています。

日本とブラジルの関係…

皆さんご存知のように、両国の関係は農業移民から始まっています。ブラジルは 1888 年に奴隸制度を廃止し、イタリア移民を導入しましたが、トラブルが多く中止したことから、農場主は労働者を求めていました。105 年前から始まった日本移民の歴史は常に苦難の歴史でした。笠戸丸(6200 t)という船が 1908 年 4 月 28 日に第一次農業移民 781 名を乗せて神戸港を出航しました。

笠戸丸はもともとロシアの船で、日露戦争のとき旅順港に座礁していた船で、船底の貨物室を蚕棚のように 2 段に仕切られ船室に改造して移民船にしたのです。笠戸丸は移民歴史上、有名な船として名を残していますが、この船で日本人移民をブラジルへ運んだのはたったこの 1 回だけで、西回り 52 日間の航海で 6 月





18日サントスに入港しました。

第1次の移民を募集するときは、「金のなる木のコーヒー園」のふれ込みでお金を貯めて、一日も早く「錦衣帰国」することが目的の、出稼ぎ移民だったのです。しかし、実際にやってみたら家屋は掘立小屋で、監視付きの奴隸のように仕事を強いられ、夜逃げするものも続出、半年後の耕地残留者は44%、一年後は24%と失敗に終わり…継続する予定が約2年間中断したのです。その後いろんな交渉を経て再開しました。作家石川達三、北杜夫がこれら初期の移民生活ぶりを細かく書いた作品を残しています。

☆☆☆ 石川達三「蒼茫」第一回芥川賞受賞、北杜夫「輝ける碧き空の下で」☆☆☆

移民の人たちの目的は、向こうへ行けば天国のようで、一生懸命働けばお金がどんどん貯まると思って行ったのですが、とんでもない。自分のもって行ったのを全部吐き出し、そのうえマラリアで、ある集団地が全滅するような目に会った…このような記録が残されています。期待を裏切られた移民たちは、賃金制のコロノから独立農をめざし、制約のない自由な環境で、収入も増え、日本人の集団地が出来てきたのは1910年以後のことです。

そういう状況の下でも日本人は…ここが偉いですね。子どもの教育に非常に熱心だったということです。大体ヨーロッパから来た移民は、集団地の中央にまず教会を建てます。しかし日本人移民たちはまず親睦を図るために日本人会をつくり、子供の教育のために日本語学校を建てたのです。いずれまた日本に帰るという気持ちがあったからです。その後状況が険しくなってきて、戦争で日本とは国交断絶し、敵性国民日本人に対して取締りが強化され、日本語を話すこと、集会も禁止になり…そういう苦難の状況で日本へ帰ることは諦めました。戦前には196,737人が日本から移住しています。



戦前日本移民がブラジルへの貢献は、何と言っても農業における貢献です。1：新作物の導入と育成：例えばレタス、ニンニク、果物など。2：農業技術の革新、近郊型集約農業。3：産業組合・生産物の流通機構の確立。など…

終戦直後、日本人社会に大事件が発生しました。勝ち組（信念派）・負け組（認識派）の対立問題です。勝ち組は「日本は絶対に負けない」と…大本営発表の短波放送を聞いていて、いつも勝ったニュースだけを盲信していたグループ。ところが片方は現地ブラジルの情報を理解し、日本の敗戦を認識していたグループと日本移民社会が二派に分かれ対立闘争になって、勝ち組「臣道連盟」が負け組23人を暗殺、147人を負傷させた。この対立の余韻は戦後10年余り続きました。この隙間をぬって、「勝ち組」の心情に付け込んで、いよいよ日本へ帰れるから、古い日本円を買ひなさいと、価値を失った日本円を高価で売りつけた「帰国詐欺」も横行しました。

苦難の第一次移民

この写真は第一次移民のうち、鹿児島県人が出発に先立ち、神戸の諏訪神社に集まり記念撮影した写真ですが105年前の姿です。家を出るときは着物であったが、準備した洋服に着替え、当時としてはハイカラな姿でした。ブラジルに着いたときも、現地の新聞は「すごく礼儀正しい移民が着いた」と褒めたたえた報道をしたようです。



原始林を開拓しているときの姿

（伐採：フイゲイラ 菩提樹の一種 樹高40mの大木）

日本移民が入ったころ、サンパウロ州はいたるところ鬱蒼とした原始林で、伐採はやぐらを組んで上のほうから切って行って、自分たちの農場を開いていったのです。

戦後移民第二次世界大戦が終わって（戦争中は断絶）1952年から戦後移民が始まり、1953年1月に戦後初の移民船がブラジルに着きました。1973年移民船による移住が終り、以後空路による移住となりました。戦後53,555人が移住、その中には多くの技術移民が含まれています。戦前戦後合計約25万人が移住しましたが、現在一世の生存者は約5万人、日系人は150万人と言われています。



原始林を開拓しているときの姿

(伐採：フイゲイラ 菩提樹の一種 樹高 40mの大木)

日本移民が入ったころ、サンパウロ州はいたるところ鬱蒼とした原始林で、伐採はやぐらを組んで上のほうから切って行って、自分たちの農場を開いていったのです。

戦後移民第二次世界大戦が終わって（戦争中は断絶）1952年から戦後移民が始まり、1953年1月に戦後初の移民船がブラジルに着きました。1973年移民船による移住が終わり、以後空路による移住となりました。戦後53,555人が移住、その中には多くの技術移民が含まれています。戦前戦後合計約25万人が移住しましたが、現在一世の生存者は約5万人、日系人は150万人と言われています。



ここから僕の自己紹介を兼ねて戦後移民の体験をお話します。

僕は1958年（昭和33年）3月に関西学院大学を卒業し、6月にはブラジルへの船に乗船していました。その頃の日本は朝鮮戦争を経て戦後復興は進み、爆発的な大好況の神武景気の後の反動で、なべ底不況の真っただ中。大学卒業目前でしたが、希望していた就職先は決まらず、やや失意の日を過ごしていたとき、日伯協会の原梅三郎専務理事が「こんな日本でよくよしていないで、広いブラジルへ行かないか…」と勧められ、直ちに就活を止めブラジル移住を決意しました。それが2月頃だったと記憶しています。当時は一般人の海外旅行は自由化される以前で、移住、留学、営業海外出張以外は出国できなかった時代です。

すぐに手続きに入って農業の経験も少ないので、農業移民として6月17日神戸港から出発しました。営農資金として何千ドルか持つて行かれる人が多かったですが、僕はお金もなし…換金する前の日に兄が選別だといって持ってきててくれたお金を換金し、米ドル\$55をポケットに入れて、着の身着のまま、何とかなるわと、先々のことは気にしないで、山手にあった移住センターから歩いて坂を下り、神戸港から出発しました。6月17日の夕方のこと、関西学院の先生方や多くの友達が送ってくれました。田舎の方からも母親が…（思い出して涙 言葉に詰る）…

次第に遠ざかっていく神戸港…人の姿もほとんど見分けがつかなくなってしまっても、関西学院の大きな校旗が左右に揺れています。

夕闇迫る頃には紀伊水道を南下し、翌日は那覇港に寄港、その後香港、シンガポール、インド洋をわたり、南アフリカのダーバン、ポルトエリザベス、イーストロンドン、ケープタウンを経て、大西洋を横断してブラジル・リオデジャネイロ、最終目的地サンツ港に着きました。58日間の船旅でした。

ここで当時の移民船の様子を簡単に説明しましょう…乗船した船はオランダ国籍のチチャレンカ号、貨客船で船底にパイプで組んだ蚕棚のベッドにマットが敷いてあって、一畳ぐらいのスペースが58日間の住処でした。…僕らは楽しんで行きましたが、可哀想なのは新婚さん夫婦でした。香港へ着いたら本場の中華料理を初めて食べました。シンガポールへ着いたらそれまで食べたことがなかったパイナップルが店頭にぶら下がっていたので、まだ青かったけど、一つ買い船に持ち込みました。それがインド洋航海中、船中に甘い匂いが溢れ、友達を集めて美味しく食べた思い出は今も鮮明に憶えています…。

南アフリカの町々を経由してブラジルへ着いたときには\$21しか残っていませんでした。我が人生\$21のスタートでした。

僕は2回移住体験をしています。1回目は言葉も状況も分からぬままの移住でいろいろ体験し7年間過ごしました。30歳に近づいたころ、このままでは人生、希望も持てず駄目だと思い、将来の準備のために一度勉強しようとアメリカへ行こうと考え、行ったのですが、蓄えのお金が無いと無理だと判断し、日本へ直行しました。

日本では工業デザインの実習、勉強を始め、2年後には小さな会社を創り独立、その後仕事は順調に拡大し、谷町9丁目でビルの大部屋を借りて、18人の仲間で工業デザインの仕事をしていました。

オイルショックで事態は急変し、大手メーカー企業からの製品デザインの依頼が全く途絶えていることに気が付き…これはえらい事になったと…デザイナーで独立できる者は独立してもらい、会社を縮小し、僕は再度ブラジルへと回帰しました。…そういう訳で2度移住体験しています。



1958年から今日まで55年間ブラジルとの関係に生きてています。実際にブラジルに住んだのは26年、日本へ帰ってからブラジル関係の仕事…ブラジル法人の日本事務所を担当したり、ブラジルから日本へ出稼ぎに来ている人達のお世話をしたり…今も頼まれたら通訳をしたり、相談にのったりいろんな仕事のお手伝いをしています。

「ブラキチ」「ジャポンノーボ」「ガランチード」

ブラキチ 一度ブラジルに行くと大概の人はブラジルが好きになります。日本にないもの、異国情緒のせいかも知れません。そういう人は寄ってはアルコールを奢めながらブラジルのことを楽しんでいます。僕も代表的なブラキチの一人です。

ジャポンノーボ…「ノーボ」は新しいという意味です。僕がブラジルへ行ったときは日系の人からは「ジャポンノーボ、ジャポンノーボ」と呼ばされました。日本から来た新人さんのことです。当時は2世の人達は余り我々「ジャポンノーボ」には友好的でなかったです。何故かというと日本はまだ国力が回復していなかったからで、みすぼらしいと… 自分達の方が上だと思って、ほとんどが僕らを相手にしてくれなかったのです。お世話になったのは戦前移民された人々…その人達からは家族同様によくしていただき、休日などは戦前移民の方の家で食事に招かれ、戦後の日本の状況を語り、またブラジルの戦時中の苦労話などを聞き、一日を過ごしました。…ところが日本の経済が好転し国力が回復して来たら、日系二世の若者達は日本への関心が強まり、「ジャポンノーボ」にも関心を持ち始めました。日本企業の提携とか、留学など模索し始めたのです。その後はよい関係が続いています。 ガランチード… 先ほど申し上げましたとおり、この言葉は「信用できる」ということです。ブラジルでは「おお！ ガランチード」といわれて日系人の信用を実感しておりました。

<次号に続く>

<講演を聞いて三首>

ブラジルを熱く語るも目に涙

別離（わかれ）しどきの母を想いて

移民船船底住処（すみか）に長き旅

熱き想いのあの日懐かし

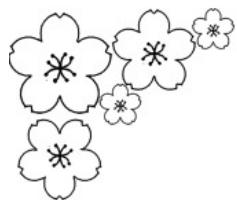
新天地ブラジル語り燃える講師（ひと）

想い重なり師走輝く

<午年新年の一首>

花の春我が道程（みちのり）を振り返り

昇る朝日に想いが巡る



秋良



10. 関西支部からのお知らせ

(関西支部長 阿賀 敏雄)

関西支部では恒例の「落語会」をはじめ新たに3月から始めた「歌声喫茶」など以下の行事を予定しております。皆様のご参加をお待ち申し上げております。

◆第10回りらいふ落語会

日時…4月18日(金)開場13時30分開演14時

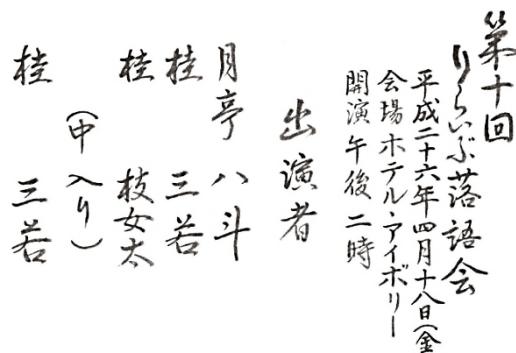
会場…ホテル・アイボリー

会費…メンバー無料ビジター1000円

◆マジックショウ

日時…5月8日(木)会場…ベルウッド

マジシャン…楠和郎



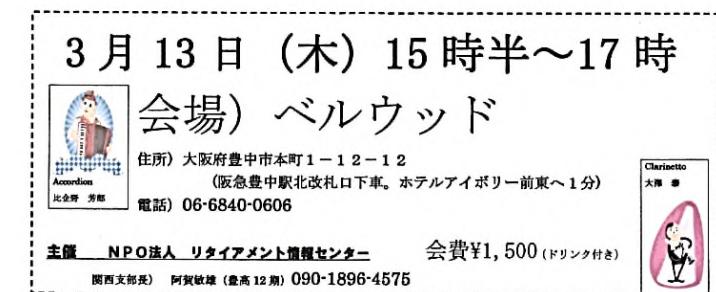
< 第10回 落語会プログラム >

◆第二回歌声喫茶

日時…6月12日(木)会場…ベルウッド



昔懐かしい 童謡 唱歌 青春歌謡 等々皆さん一緒に
歌いましょう (おぼろ月夜・櫻子のみ・夜明けの歌・あの丘越えて他……多數)



『歌声喫茶、第一回は3月13日に終了しておりますが、上記のパンフレットは皆様へのご紹介の為、掲載させていただきました。』
事務局】



11. “りらいぶ” サロンのご案内

“りらいぶ”塾 塾長 鈴木 信之



《りらいぶサロン》のご案内

2014年3~5月期

※ご注意 3月より場所が移転しました

現役教師の方、これから教師を目指す方へ…

日本語教師でトクする話

目からウロコの日本語教師活用術

——プレゼンター／ファシリテーター にほんご教育コンサルタント・鈴木信之

年齢、性別、出身校、経験などを超えて、「日本語教師」という共通テーマのもとに情報交流できる場を作りました。現役日本語教師の方も、養成講座などで勉強中の方も、海外で教えたいという方も、ちょっと興味があるという方も、ぜひお気軽に、何度でもご参加ください。

フリートークではプレゼンターへの質問のほか、参加者同士でお互いの経験や進路のこと、教授法、人間関係、その他話し合いたいことなど気軽に情報交換しましょう。

☆☆☆ 2014年3~5月期の開催 ☆☆☆

3月26日(水)・4月16日(水)・5月21日(水) いずれも18~20時

* サロンは17時より開放中。プレゼンターも来所しています。

●場所 R&I りらいぶサロン ※3月より移転しました。ご注意ください。

(東京都中央区日本橋人形町1-19-9 古暮ビル4F TEL 03-3668-8005) ⇒裏面地図参照

* 東京メトロ日比谷線・都営浅草線「人形町」駅(A6番口) 徒歩1分

東京メトロ半蔵門線「水天宮前」駅(8番口) 徒歩5分

●参加費 500円(サロン運営費としてご協力ください)

《りらいぶサロン》とは **

自分自身の「生きがい」や「やりがい」を考え始めた方々、あるいは退職・離職などで新たな自分の人生の充実を目指す方が共に集まり、共に考え、共に刺激しあい、それぞれが新たな行動を開始する——。そんなクリエイティブなきっかけづくりの場を提供します。主に退職前後の方を対象に情報提供を行うNPO法人リタイアメント情報センター(R&I)が運営しています。

●お問い合わせ・参加申し込みは…

NPO法人リタイアメント情報センター(R&I)《りらいぶサロン》(担当:鈴木、佐野)

TEL 03-3668-8005 (月・水・金 12~17時とサロン当日のみ)

FAX 03-5643-7346 ⇒氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

E-mail appli@retire-info.org ⇒氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください

■R&I事務局本部 ■〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-14-4F <http://retire-info.org>

◎《りらいぶサロン》利用者規約

- ご利用の際はサロン運営費として毎回一人500円をご負担ください。
- 他の利用者の迷惑にならないよう、マナーを守ってご利用ください。
- サロン利用時間内に限り、酒類を除き、ペットボトル・缶飲料の持ち込みは可能です。ただし、空きボトルなどは各自お持ち帰りください。食事はご遠慮ください。
- 許可なくサロン内でのビジネス勧誘、商品販売などの営業活動はご遠慮ください。
- サロンは図書館内です。飲食しながらの図書館蔵書の閲覧は禁止します。



12. バリコミュニケーション

(会員 平川 龍)

バリ コミュニケーション

<http://www3.ocn.ne.jp/~bali/>

第100号

2014年 1月発行

PT. Care Resort Bali

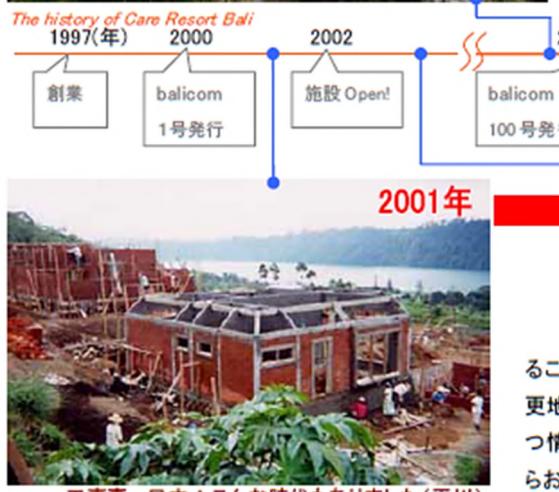


今年もまた1年、大切に 積み重ねてまいります

2014年の新しい年に、また皆様にお目にかかるる
日を、ケアリゾートバリのスタッフ一同、心から楽しみにしてお
ります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

「バリコミ」100号発行を機に
少し振り返ってみると…

2000年3月に第1号を発行して以来、皆
様のご協力のお陰で今回100号を発行す



ることができました。1号の発行当時、現地はまだ建築前で
更地状態でした。建築の進行状況のお知らせ、バリで役立つ
情報提供から始まった本紙ですが、今まで皆様に何かし
らお伝えできましたなら幸せに思います。

これからも出会いを大切に… 十数年の間に、
スタッフ達の日々の手入れもあり、庭木が大きく成長し
ました。今までたくさんの方々にご来訪いただき、ケア
リゾートバリとしても貴重な思い出をたくさん作ることが
できた事を心より感謝いたします。これからも出会い
を大切にし、1年1年一所懸命頑張ってまいります。

新しくできたバリの高速道路を初体験！



空港からスアドゥ
アヘ向かう高速
道路。海の眺め
が絶景。バリらし
くバイク専用の車
線も。

◆100号記念◆ 会員様からご投稿いただきました

ケアリゾートバリは、
私の第二の故郷です



ケアリゾートバリには2003年頃から年2~3回、通算
30回以上も行っているベテラン訪問者になりました。写
真を見て、施設内の木々の成長に年月を感じていま
す。ただ何度も行つても、一旦門をくぐるとケアリゾートバ
リの穏やかな世界があり、ホッとできること、よく眠れる
ことが気に入っています。携帯電話やインターネットの
活用で仕事術は徐々に変わって来たものの、スタッフ
の皆さんのお優しさは昔と変わらず、第二の故郷を感じ
ます。今年も、2~3回行こうと考えています。

◆当記事に関するご意見、お問い合わせは、編集担当の瀬和までお願いします。E-mail: ksewa@pastel.ocn.ne.jp



13. ニュージーランド・クライストチャーチ レポート(4月号)

(会員 島村 晴雄)

NZ-クライストチャーチ レポート

<http://www.ccc.govt.nz/>

2014年4月発行・その16

今回はクライストチャーチ（以降 CHC）から約180キロ北東にある、ホエール・ウォッチングや海岸に多くのオットセイが生息し観察出来る静かな観光地・カイコウラを紹介させていただきます。

カイコウラは CHC から車で約2時間半程度で行ける所で、CHC から日帰りで訪問可能な観光地です。

筆者も昨年カイコウラへ CHC から日帰りで行って来ましたが、行ってみると非常に自然豊かな所で、少し滞在したいと思いましたが、当日夕刻 CHC で約束があり日帰りとなりましたが少し残念な想いでした。

国道1号線で CHC から北西ヘワイナリーで有名なワイバラを経由し、カイコウラの近くで景観の良い海沿いの道を通り、カイコウラの町に入ります。 カイコウラの町はカイコウラ半島の付け根の東周辺に広がっていて宿泊施設等もこの周辺に多くあります。

この半島の途中から海を隔てて内陸部の山々が見える景色は本当に絶景です。

車で半島先端部分にある駐車場まで行けますが、車で半島周遊ができる道はありません。



飛行機の中から南東方向へ
カイコウラ半島を望む。
半島の左付け根部分が町



半島の海岸から内陸の
美しい山々を眺める

よってカイコウラの半島の先端周辺に多数生息しているオットセイのコロニー等を見学したい人は、半島先端周辺にある遊歩道を歩き、見てくることとなります。

お薦めは CHC からの訪問であれば、最低1泊は決め込んで、朝早めにカイコウラに入り、車を駐車場に停めて、遊歩道を歩き、周辺景色やオットセイのコロニー等をじっくり見てから、夕方にカイコウラの宿に行き、近くのレストランでシーフード料理と白ワイン等を堪能する。

カイコウラ名物はクレイフィッシュ（伊勢エビの仲間）やアワビ等があり、少し高級ですが是非お試しする価値はあります。

また町のメインストリートであるウエスト・エンドには、バブやレストラン、土産物を売っている店も多くあり、ショッピングも楽しめますので、翌日の散策もお薦めです。

また国道1号線のカイコウラ周辺ビーチ・ロード沿いには新鮮な魚介類が手に入る店もあり、ここで購入し、自宅に戻り、自宅で料理してじっくりとシーフードを堪能することも可能です。

筆者は日帰りで雄大な景色を見るだけで CHC に戻りましたが、国道1号線沿いにも若干オットセイが生息している場所があり、少し観察出来たことが自分への良いお土産となりました。



カイコウラの町の中心部
ウエスト・エンド周辺



国道1号線沿いにある
オットセイ生息場所での観察
あまり近づくと危険



14. バリ・ロンボクレポート(4月号)

(会員 島村 晴雄)

<Casablanca の新ホームページ : <http://w01.tpi.jp/~sr09298639>>

バリ&ロンボク・レポート

<http://w01.tpi.jp/~sr09298639/> (Casablanca HP は左記に移行しました。)
第50号 2014年4月発行



先月号、現在バリ・サヌールで老舗のホテルのリニューアルや新しいホテルの建設がさかんに行われている状況を報告させていただきましたが、ロンボクでも最近はあちらこちらで同様な動きが起きています。ロングステイヤーにとってあまり関係は無いかと思いますが、ロンボクにもバリに劣らず高級リゾート・ホテルが幾つかあり、こちらでも盛んにホテルの増改築等が進んでいます。

以前のロンボク・レポートで、ロンボク島の南海岸にあるサーフィンで有名なクタ村にあるノボテル・ロンボクホテルを紹介させていただきましたが、今回はロンボクで一番最初に開けた海のリゾート地スンギギにあるスンギギ・ビーチ・ホテル内にある、少し高級なプール・ヴィラ・クラブを紹介させていただきます。

筆者も数年前に一度利用させていただきましたが、周遊出来るプールに沿って全16棟のヴィラがあり、それぞれ二階建で、プール前のテラスも広く、二階にもテラスがあり、また各室にジャグジーもあり、本当にリゾート気分を存分に楽しめて貰えるヴィラでした。いつもロングステイ用の廉価なホテルばかりでなく、たまには高級リゾートの利用も良いかと思います。

スンギギ・ビーチ・ホテル内の一角落あるプール・ヴィラ・クラブのエントランス

周囲するプールに面して建っているヴィラ風景

このプール・ヴィラ・クラブを利用すれば、スンギギ・ビーチ・ホテル内の施設等はすべて利用出来ます。

このスンギギ・ビーチ・ホテルは、少し賑やかなスンギギ地区の中心部にあり、近くには多くのレストランやババ等があり、歩いて食事や買い物に行くにもとても便利な場所にあります。

とは言ってもバリの賑やかさに比べれば静かなリゾートです。

ロンボクにはバリの様に多くの観光地や観光施設は殆どありませんので、海辺でゆっくりしたり、ホテルのプールサイドでのんびりしたり海のレジャーを楽しみながら時を過ごすことが出来ない方々にはロンボクでの滞在はあまりお薦め出来ません。

筆者がロンボクに訪問した時は、海辺の日除け出来る場所で寛ぎながら、ウォークマンで好きな音楽を聴いたり、ピールでも飲みながら、時々読書をしたり、昼寝をしたり、海のさざ波を聞きながらゆっくりすることが至福の時といつもながら感じています。

マリーン・スポーツが満喫できるギリ・メノに一度はお越しください
& Casablanca 。
<http://w01.tpi.jp/~sr09298639/> Casablanca
のお問い合わせは、 menocasablanca@gmail.com へ



ヴィラのプール側に面しているテラス



ヴィラの裏から歩いてすぐにバリ海側に出る



ヴィラから歩いて出るとすぐにスンギギ・ビーチ通り

1



15. 「“りらいぶ” サロン、自費出版図書館」移転のご案内

« “りらいぶ” サロン・自費出版図書館は移転しました»

●移転先 〒103-0013 東京都中央区人形町 1-19-9 古暮ビル4F
電話・FAX 番号は変わりません。

●最寄駅

都営浅草線・人形町駅下車 徒歩1分 ●日比谷線・人形町駅下車 徒歩2分
半蔵門線・水天宮駅下車 徒歩5分
<地図>

http://www.mapion.co.jp/m/35.68270067_139.78544114_10/

●業務開始は3月10日（月）です。

●開館日・時間 月・水・金曜日 12:00～17:00 ※ただし祝祭日、年末年始、
お盆は休館。その他、催し物などで開館時間の変更または休館の場合があります。

●入館無料／貸し出しが行っていません。コピーサービスあり（1枚50円）

●連絡先

TEL 03-5643-7341 FAX 03-5643-7346
eメール library@ke.main.jp ホームページ <http://library.main.jp>

『自費出版は、リタイアメント情報センターの活動プロジェクトの1つとして自費出版される方々を始め会員の消費者保護を目的として、活動している主要なプロジェクトのひとつです。また、自費出版図書館は自費出版された書籍を豊富に蔵書する図書館であり、リタイアメント情報センターの法人会員でもあります。自費出版図書館では現在、主に戦争体験をつづった自費出版図書を蒐集しています。自作品のほか、お手元にご友人・知人の作品がございましたら、当図書館までお送りください。』

